

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成20年度農作物病害虫発生予察情報について

平成20年度農作物病害虫発生予報第5号を発表したので送付します。

平成20年度農作物病害虫発生予報第5号

平成20年7月15日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、葉いもちの発生圃場率が5.3%、発病度が0.1で、平年(38.3%、2.6)より発生が少なかった。

(2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉いもちの発生が多い圃場では、使用基準を確認の上、液剤による薬剤防除を出穂直前までに行なう。

紋枯病

1) 予報内容

発生程度：「少～中」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が15.8%、発病株率が1.0%で、平年(36.1%、2.8%)より発生がやや少なかった。

(2) 水稻の生育は平年並である。

(3) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年より少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

(1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が21.1%、株当たり虫数が0.01頭で、平年(60.8%、0.54頭)より発生が少なかった。

(2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年より少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯での飛来調査では、誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が4.5%、株当たり虫数が0.01頭)。
- (3) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が18.1%、被害株率が0.9%)。
- (2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除が遅れると幼虫による葉の食害がすすむので、今後の発生に十分注意し適期防除に努める。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

(6月30日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生程度：「多」、発生量：平年より多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、18地点のうち13地点で生息を確認した。捕獲地点率は72.2%、1地点当たりの捕獲虫数は13.0頭で、平年(39.6%、4.9頭)より発生が多かった。
- (2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない**)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行なう。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

普通期水稻

いもち病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年よりやや少ない(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、葉いもちの発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が45.1%、発病度が4.0)。
- (2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、発生に中立的である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場においていもち病の発生を認めた場合は、速や

- かに薬剤防除を行なう。また、その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行なう。
- (2) 葉いもちの発生が多い圃場では、薬剤の登録内容を確認の上、粒剤は出穂10日前までに、液剤は出穂直前までに防除を行なう。また、出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行なうとともに、穂肥の施用量は控えめとする。

紋枯病

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が10.0%、発生株率が0.9%で、平年(27.0%、5.8%)より発生がやや少なかった。
- (2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して、上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年より少ない(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が3.3%、株当たり虫数が0.001頭で、平年(65.5%、0.73頭)より発生が少なかった。
- (2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生程度：「少」、発生量：平年並(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯での飛来調査では、誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が1.7%、株当たり虫数が0.00頭)。
- (3) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

(7月15日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生程度：「多」、発生量：平年より多い(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、27地点のうち21地点で生息を確認した。捕獲地点率は77.8%、1地点当たりの捕獲虫数は18.1頭で、平年(50.9%、8.2頭)より発生が多かった。
- (2) 7月11日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行なわない**)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を

認めたら早急に防除を行なう。

- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行なう。

II. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
テレホンサービス：0883(26)1199
U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

○病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。